

2026年度 ひまわり組(年長)年間計画

《目標》

- ・自分からすすんで挨拶をする
- ・就学を目前にして自分で考え判断し、自信をもって行動する
- ・最後までやり遂げる力を持つ
- ・遊びや生活を通して人に優しく接し、友達と協力する大切さを知る
- ・最後まで話を聞く姿勢を持つ
- ・約束やルールを守り、友達や保育教諭と仲良く遊ぶ

- ☆一人ひとりが園生活を十分に楽しみ、いろいろな経験をしていくなかで充実感が持てるようにする。
- ☆友達とのかかわりの中で信頼感、思いやりの心を育てる。
- ☆子ども達で考えながら問題解決に向かっていくよう支えていく。
- ☆子ども自身が当番の意味や必要性を理解しながら取り組んでいけるようきめこまかい援助をする。

	I 期（9・10・11月）仲間づくり	II 期（12・1・2月） みんなで取り組もう	III 期（3月） まとめ
子どもの姿	・異年齢保育の日常から変わり(10時～15時)年長のみのクラスとなる。これまでと変わらず気配りも持ち続けられている。 ・新しい部屋、遊び、環境に期待をふくらませる。 ・ひまわりとしての仲間意識が芽生え、友達とアイデアを出し合い試したり、工夫したりしながら、取り組むことが面白くなる。	・仲間意識が高まり、友達と一緒に目的を持ち、生活や活動の見通しがつくようになる。 ・身近な文字や数などに関心を持ち、生活や遊びの中で使って楽しむ。 ・目標を持って、自分の力を発揮し、自分なりに工夫して遊んでいる。	・身近な自然現象に親しみ、季節の移り変わりを感じる。 ・就学への期待がふくらみ、生活や遊びに意欲的に取り組んでいる。 ・友達と協力して、役割分担しながら、工夫して遊んでいる。 ・異年齢の友達に対して、進んでお世話をしたり教えてあげたりする。
ねらい	・友達と好きな遊びをしたり、集団遊びをするなかで、自分達が作ったルールや約束を守って遊ぶ。 ・自分の希望や意見を主張したり、相手の意見も受け入れ、相談して共通の活動を楽しむ。 ・生活や遊びの中で、数・量・形などに対して関心を深める。 ・身近な自然にふれ、変化に気付いたり、感動したりする。 ・地域に対しての関心や思いを深める。	・雪や氷の自然現象に興味を持ち、親しみながら積極的に関わって遊ぶ ・目的に向かって、友達と協力してやり遂げようとする。 ・友達と考えたり工夫したりしながら、共通の目的に向かって意欲的に取りくみ、充実感や達成感を味わう。	・就学への期待や自信を持ち、意欲的に活動する。 ・相手の気持ちに寄り添い、お互いを思いやり、共に過ごす時間に充実感を持つ。 ・身近な自然から、春の訪れに気付き、興味や関心を持つ。
内容	・戸外で体を動かしたり、室内で友達と一緒に遊びながら、ひまわりグループで遊ぶ楽しさを味わったり、仲間意識が深まる。 ・身近な社会現象に感心を持ち、色々な行事に参加する。 ・秋の自然に親しみ、取り入れて遊ぶ。 ・お散歩を通して、地域の様子に関心を持つ。 ・自分の得意なことを生かしながら、友達と一緒に遊びや生活を楽しむ。	・寒さに負けず、友達と一緒に全身を使った運動や遊びを楽しむ。 ・自分なりの目標を持ち、試したり工夫したりしながら、繰り返し挑戦する。 ・生活に必要な標識や文字・時刻や時間などに興味や関心を持つ。 ・音楽に親しみ、表現する楽しさを味わう。 ・冬の身近な事象に興味を持ち、遊びに取り入れる。	・自分達で考えたり、協力したりして、目的を持って遊びを進める。 ・友達との関わりの中で、していいことと悪いことがあることを理解し、判断して行動する。 ・木の芽のふくらみや草花などを見て春の訪れを感じる。 ・異年齢の友達と一緒に遊んだり、楽しく過ごす中で、思いやりを持つ。 ・就学への期待をふくらませ、友だちと協力してあそびや仕事をすすめ、自覚や自信をもって、意欲的に活動する。
環境の構成	・環境衛生に十分気を付け、安全で快適に過ごせるようにする。 ・一人ひとりの欲求を十分満たせるように努め、情緒の安定を図る。 ・子ども達が自由に表現し楽しめるよう、様々な材料を用意する。 ・身近にある文字やかずをに関心を持ち、実際に使ってみることができるよう環境を用意する。 ・自然に親しみ、遊びに取り入れて楽しめるよう図鑑や絵本を用意しておく。	・一人ひとりの健康状態を把握し、異常を感じた時は適切な対応をする ・失敗してもあきらめず、何度も挑戦することの大切さを知らせ、はげましたり自信を持たせたりする。 ・自然の変化に気付いたり、楽しんだりできるよう、自然の中で遊ぶ機会を持つ。 ・友達と相談したり、協力したりして遊びや活動を進めていくことを楽しめるように働きかけていく。 ・身近にある文字や数に関心をお持ち、実際に使ってみることができるような環境を作る。	・卒園までの日々、友達と過ごす楽しさを十分に味わい楽しめるよう援助する。 ・異年齢児との交流を楽しみながら、思いやりを持って関わる機会を作る。 ・春の訪れを感じる機会を持つ。 ・自分の考えを人前で話し、自信が得られるような機会を用意するとともに、周りの人たちに対して感謝の気持ちがもてるようにする。
行事	〔9月〕 ・おたのしみ会 〔10月〕 ・運動会 ・芋ほり ・岩国祭り 〔11月〕 ・創立記念イベント ・幼年消防イベント ・芋パーティー・秋のバス遠足	〔12月〕 ・もちつき ・クリスマス会 〔1月〕 ・110番イベント ・消防出初式 ・ひまわりの会（小学校の先生との交流会） 〔2月〕 ・豆まき ・小学校訪問	〔3月〕 ・お別れバス遠足 ・生活発表会 ・卒園式

- ◎他に4月～3月の間にひまわりのみの活動が入ります。
- ・サービスセンター訪問（2ヶ月に1回）、さくら庵(各グループごと)
 - ・クッキング（5月より毎月1回）
 - ・お泊まり保育（7月）、地域のイベント参加、 蓮田見学（年3回）
 - ・体育教室（毎月1回）・交通安全教室・踏切安全教室・英会話教室（年4回）

2026年度 異年齢保育年間計画

《目標》

大きな声で元気にあいさつをする
先生やお友達の話最後まで聞くことができる
集団生活や異年齢との関わりから、優しさや思いやりの心を育む
自分の経験したことや考えたことを言葉にして伝えることができる

	I 期(4～5月)	Ⅱ 期(6～8月)	Ⅲ期(9～10月)	Ⅳ期(11～12月)	V 期(1～3月)
予 想 さ れ 姿	・園生活に少しずつなじみ、好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ・年上の友達に遊んでもらい喜ぶ子もいるが、大きい子に圧倒され不安を持つ子もいる。 ・ひまわり・きくは、これまでの自分たちの経験からすみれに生活面の事を教えてあげたり、お世話をしたりする。 ・保育者や友達と一緒に絵本を見たり、輪になって話したりすることで話している人に注目して話を聞こうとする。	・生活の仕方が分かり安定して過ごすようになる。 ・友達と関わって遊ぶことが多くなり、友達との関わりを喜ぶようになる。 ・友達と遊ぶ中で、自分の気持ちがうまく伝えられずに、トラブルになってしまうことがある。 ・どろんこ遊び・水遊び・絵の具遊びなど、身体全体を使ったダイナミックな遊びを楽しむことで、より一層の遊び意欲を持つ。 ・ひまわりぐみはお泊まり保育を通して、より成長への実感を得る。 ・保育者や友達に自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりすることで自分の思いを持つ。	・運動会に向けた活動を通して、身体を動かして楽しんだり、異年齢で遊んだりして、一つのことをみんなと一緒に取り組もうとする姿が見られる。 ・敬老会を通して、お年寄りを招いたり、プレゼントをあげたりなどの活動でその意味を大切にしながら参加する。 ・残暑の中で、体調を崩したり、眠たくなったりするので健康面での自分の管理をおこなう。 ・自分以外の人(保育者や友達)の話をしっかり聞くことで相手の気持ちを知る。	・友達同士で声をかけ合い、集団遊びやゲームあそびを楽しんだり、自分達でルールを作ったりして楽しむ。 ・気の合う友達と遊ぶ中で、友達の話に耳を傾け、思いを受けとめようとする。 ・散歩、園庭での遊びで、秋の自然を感じながら遊ぶ。 ・秋の自然に触れ、他の季節との違いに気付く。 ・身近にある木の実や葉を遊びに取り入れ、自分なりに工夫したり、周りの友達の使い方に刺激を受けたりしながら遊ぶ。 ・話を聞く時は相手の目を見て、お互いの気持ちを しっかり伝えられるようになる。 ・2歳児は少しずつ異年齢グループに移行する。	・園生活に自信がもてるようになり、異年齢や 同年齢と一緒に協力しあいながら、遊びや生活を意欲的に進めていくようになる。 ・進級に期待を持ち、主体的に生活しようとする姿が みられる。 ・年長は自分の就学への期待を膨らませる。 ・自分の気持ちを言葉にして伝えることもできるが、自分以外の人の話を聞くことで、相手の気持ちも考えられるようになり、自分の気持ちもしっかりと表現できるようになる。
ね ら い	・保育者と少しずつ信頼関係ができていき、園生活を安定して過ごす。したい遊びを見つけ、友達や保育者と一緒に楽しむ。 ・春の自然に触れて遊ぶ中で、季節の変化に関心を持つ。	・夏の生活の仕方を身につけ、快適に過ごす。 ・夏の遊びを楽しむ中で、友達との関わりや遊びを広げ、充実感を味わう。 ・友達、保育者と夏ならではの遊びを楽しむ。	・同じ目的に向かって、クラスのみんなで取り組もうとする。また、目的を達成したときの満足感をみんなで味わう。 ・秋の自然の中で体を動かして遊ぶ。 ・秋の自然や社会現象に興味・関心を深め、生活体験を広げていく。	・戸外で十分に身体を動かして遊ぶ。 ・クリスマスやもちつきを楽しみながら、進んで参加する。 ・秋から冬へと移り変わる自然に気がつき、親しむ。	・冬に必要な生活習慣が身に付き、すすんで行おうとする。 ・生活や遊びと一緒に進めていく中で、異年齢の友達とのつながりを深めていく。
内 容	・生活の仕方(担任、持ち物の置き場、生活の流れ)が変わり、自分のペースで落ち着いて生活を送れるようになる。 ・異年齢クラスの中で、保育者に見守られながら仲良しの友達と一緒に遊びを楽しむ。 ・春の自然の中で、身近な草花・虫に触れて遊ぶ。 ・散歩や親子遠足を楽しむ中で、季節を感じたり、行事に参加することの楽しみを知る。	・夏を健康的に過ごす生活の仕方を知り、簡単な身のまわりの事を自分でする。 ・友達の遊びに刺激を受け、自分の遊びに取り入れれたり関わって遊んだりする。 ・泥んこ遊びや水遊びなどいろいろな夏の遊びを気の合う友達と楽しむ。 ・自然の変化を感じながら、草花や虫に触れて遊ぶ。	・生活の仕方が分かり、自ら気づいて行動する。 ・同年代や異年齢の友達と関わっていく中で、遊びのルールや役割を決め、遊びを展開させていく。 ・運動会に向け準備をしていく中で、いろいろな運動遊びを楽しむ。	・生活の仕方が身に付き、それを小さい友達に教えてあげようとする。 ・異年齢での生活・遊びをしていく中で、そのルール・役割を教え合ったり、手助けをしたりする。 ・冬の健康な生活の仕方を知る。	・衣類の調節、うがい・手洗いなどの大切さがわかり、自分でやろうとする。 ・お正月あそびを楽しむ中で、自分たちでルールを作ったり、それを守って遊ぶたのしさを知る。 ・生活発表会に向けて、友達と共通のイメージを持つてのびのびと表現して楽しむ。 ・お別れ会を通して、年長クラスとの交流を深め、親しみや感謝の気持ちを持つ。
環 境 構 成	・進級式を迎えるにあたって、担任、環境に期待感が持てるよう配慮する。(新しい環境に不安を抱く子へは声をかけをしたり、楽しい触れ合いあそびをするなどして安心して過ごせるようにする。) ・一人ひとりの持ち物の置き場やロッカーなどにマークをつけたりすることで、安心して使える場所をつくる。 ・子ども一人ひとりをよく観察し、興味・関心のある遊びが楽しめるように、いろいろなコーナー、遊びを設定する。落ち着いた雰囲気作りをし、子ども達に生活の仕方を知らせていく。 ・草花や虫に触れたりできる機会のある遊び場の下見 をし、散歩コースに危険はないか確認しておく。 ・前年度担任や、家庭と連携し、子ども一人ひとりが安心できる人との関係を保障しながら、子どもと信頼関係を築いていくようにする。 ・話をしている人に体と目を向けられるように、いすや体の向きを変え、目と目を合わせて話を聞く体勢をつくる。 ・自分の物を持つことによって、物を大切にすることやきちんと片付けることを伝える。	・一人ひとりの健康状態を把握し、気持ちよく生活できるようにする。 ・集団の中でうまく自分を表現できない子は、大人との関わりや遊びの中で少しずつ表現できるように援助する。 ・興味・関心のあるコーナーでの遊びが満足いくまで楽しめるように、時間配分やコーナーの設定に配慮する。 ・水を使った遊び、シャボン玉、ボディペインティングなどを思いきり楽しめるように、遊具や用具を十分に用意する。 ・水遊びでは、水を怖がる子もいるので楽しさやおもしろさを感じられるようにしながら、徐々に抵抗感を取り除いていく。 ・水の苦手な子には、その子なりの楽しみ方で、満足できるように工夫をする。水と自然に触れあえるような遊びに誘ったりする。 ・他の友達の姿を見ながらまねたり、自分の遊びにとりいれようとする気持ちを大切にしながら、認めたり見守ったりする。	・いろいろな友達との関わりを深めていく中で、相手の気持ちを受けとめながら、一緒に遊ぶ楽しさを伝えていく。 ・新しい遊びをするときには、保育者も仲間に入り、ルールを共有できるように仲立ちしたり、まわりの子にもルールを知らせていくようにする。また、みんなで話し合ったりして、より遊びを広げていけるようにする。 ・運動会に向けて、飾り付けや競技・ゲームに使うものを作り期待感を高めていく。 ・外での活動が多い中、子ども達の体調に気をつけ、水分補給を十分におこなう。 ・2歳児は、川西れんげ室で異年齢へのスムーズな移行に向け少人数のグループで過ごし、自然になじむことができるようにする。	・保育者が率先して子ども達を戸外へ誘い、異年齢の友達と関わって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・もちつき、クリスマスなど、年末の行事への興味・関心が高まるように、いろいろな絵本・歌などから行事をおこなう意味を知らせ、期待を持って参加できるようにする。 ・散歩の時に摘んできた草花や木の実などの自然物を部屋の中に飾り、秋の季節を感じられるようにする。 ・自然物で遊ぶことを楽しめるよう、思いに沿った材料を出し、友達と関わりながら遊びの幅を広げられるようにする。 ・自らが、身の回りの整頓・衣服の調整などできるように片付けるスペースをきちんと確保しておく。	・生活発表会に向けての取り組みの中で、いつもより緊張している子には、スキンシップをとりながら言葉をかけ、緊張がほぐれるようにする。 ・共通して体験しているお正月遊びをいつでも楽しめる ように道具をそろえる。 ・相手の気持ちに気付かせるようにしながら、友達に自分の気持ちをうまく伝えられない子には、言いやすい雰囲気を作ったり、言葉を引き出すような投げかけをしたりする。 ・お別れ会では、異年齢でしっかり触れあえて、年長からの引継になるような内容にする。また、一人ひとりが楽しく参加できるようにする。 ・それぞれの子が進級して大きくなることを一緒に喜ぶとともに、一人ひとりの成長を認め、自信を持って活動に取り組み、力が発揮できるようにする。 ・インフルエンザなどの感染症が流行する時期なので、健康管理に留意する。
行 事	〔4月〕 ・進級式 ・入園式 ・はなまつり ・蓮田見学① 〔5月〕 ・子どもの日 ・母の日 ・親子遠足 ・健康診断	〔6月〕 ・踏切安全教室 ・父の日 ・歯科検診 〔7月〕 ・お泊まり保育(ひまわり) ・蓮田見学② ・夏まつりごっこ 〔8月〕 ・水遊び	〔9月〕 ・おたのしみ会 〔10月〕 ・芋ほり ・運動会 ・岩国まつり	〔11月〕 ・創立記念イベント ・幼年消防イベント ・秋のバス遠足 ・芋パーティー ・蓮田見学③ 〔12月〕 ・もちパーティー ・クリスマス会	〔1月〕 ・110番イベント ・出初式 ・ひまわりの会 〔2月〕 ・豆まき 〔3月〕 ・生活発表会 ・卒園式

2026年度0歳児年間指導計画

年間目標

一人ひとりの生活リズムを大切にし、
受け入れられる安心感のなかで園生活を楽しめるようにする

- ・保健的で安全な環境の中で生理的な欲求を満たし、一貫した生活リズムを整え健康なからだをつくる。
- ・保育士からの語りかけやふれあいを通して愛されることを実感し喜びにつなげるようにする。
- ・保育士との良好な関係の元、自分の思いをうけとめてもらえる安心感の中で園生活を楽しむ。
- ・1歳を向かえ生活リズムが安定すると共に探索活動がさかんとなり歩行が安定する。
- ・お友達存在に気づき関わろうとしたり、保育士とのふれあい遊びを楽しむ。

成長の過程

3か月	5か月	7か月	9か月	1歳
○おなかがすくと、泣いてミルクを欲しがる。	○離乳食を食べ始める。 ○スプーンに慣れ、モグモグゴックンが出来るようになる。	○コップを使ってお茶や水を飲む。 ○手づかみで食べる。	○スプーンやフォークを使って食べる。	
○おむつが汚れていると泣いて知らせる。	○人見知りが始まる。	○午睡が1回に定まってくる。		
○「アーアー」「ウーウー」 なん語が始まる。	○絵本に興味を持つ。	○なん語が増える。	○一語文が出る。	○おとなの模倣が多くなる。
	○お座りが安定し、ハイハイをし始める。		○ほめられることに敏感になる。	
○首がすわる。		○伝い歩きが上手になり箱などを押して歩く。	○歩き始める。	○歩く距離が長くなる。
○寝返りが打てる。	○身近にある玩具などに、 自分から手を伸ばして握ったり 振ったりして楽しむ。		○自我が芽生え、だだをこねる。	

ねらい

	I 期（4～5月）	II 期（6～8月）	III 期（9～12月）	IV 期（1～3月）
季節の配慮	・ありのままの子どもの姿を受け入れ、特定の保育士と安心できる信頼関係を築く。 ・体調に気をつけながらも戸外に出て、日光浴や外気浴を行う。 ・保育士と一緒にまた親子で一緒に運動遊びを楽しむ。	・気温や湿度に配慮し、快適に過ごせる環境をつくる。 ・一人ひとりの体調にあわせて沐浴や水あそびを取り入れる。	・歩く、くぐる、登るなどの活発な運動あそびを多く取り入れる。 ・お外遊あそびも積極的に取り入れ、秋の自然物に触れる経験ができるようにする。	・子ども同士のかかわりやふれあいができるように、保育士が仲立ちをする。 ・気候や体調に留意しながら、外気にふれられるあそびも取り入れる。
保健・安全	・一人ひとりの健康状態を把握できるよう、毎日の視診や触診をていねいに行う。 ・衛生的環境の中で、生理的欲求を十分に満たしていく。	・汗をかくので、着替えや水分補給をこまめに行い熱中症予防に努める。 ・夏の感染症予防や健康増進について家庭との連携も十分に取っていく。	・気温や運動量に合わせて衣類の調節をし健康に過ごせるようにする。 ・さまざまな活動のあとの手洗いを習慣的にを行い、健康管理をする。 ・音楽に合わせて、歌や踊りを楽しむ。	・探索活動や集団活動が楽しめるように、広く安全な環境を整える。 ・室内や玩具の消毒をこまめに行い、冬の感染症予防に努める。

2026年度 1 歳児年間指導計画

年間目標

一人ひとりのあそびへの意欲を引き出し、
育ちあい触れあい楽しく過ごす

- ☆食事・排泄・着脱など生活に必要な基本的な事を自分でしようとする気持ちを持つ。
- ☆保育士への甘えや依存の要求が満たされ情緒が安定する。
- ☆身の回りにさまざまな人がいることを知り、徐々に友だちと関わってあそぶ。
- ☆保育士と楽しくふれあう中で、自分の思いを表し言語の世界を広げて行く。
- ☆安全な環境をつくり、子どものさまざまな欲求を適切に満たし、生命の保持、情緒の安定を図る。

子ども達のすがたと育てたい心

前期	後期
・ 食事のリズムができ、手づかみや、フォーク・スプーンを持って意欲的に食べようとする気持ちを育てる。 ・ 歩き始めて歩行が安定してくると探索活動が盛んになるので、興味や好奇心を育てていく。 ・ 身のまわりのことに興味を示しますので、自分でしようとする気持ちを育てる。 ・ 指さし・身振り・片言などを盛んに使い、してほしいことを態度や表情で伝達するようになるので、安心して欲求をだせるようにしていく。 ・ 音楽や歌を聞くなかで、リズムにあわせてからだを動かし表現する喜びを育てる。	・ 食べ物の好き嫌いが出始めるので、苦手なものでもスプーンやフォークを使って食べようとする気持ちを育てる。 ・ 走ったり、跳んだり、くぐったり等の動きが活発になってくる。自由にからだを動かしたり、指先を使ったりする意欲を育てる。 ・ 簡単な衣類の着脱や、身のまわりのことが少しずつできるようになるので、自分でできた喜びを味わう。 ・ かんしゃく、反抗、自己主張をするようになる。一人ひとりの子どもの思いを十分に受け止め、安心して欲求を表せるようになる。 ・ 二語文を話すようになるので、言葉のやりとりを楽しんだり、友達とのかかわり方を知らせ、喜んで一緒にあそべるようになる。 ・ 2歳の誕生日を目安に移行の準備をすすめ、一人ひとりの成長に合わせてお部屋を移る。

ねらい

I 期（4～5月）	II 期（6～8月）	III 期（9～12月）	IV 期（1～3月）
・ 子どもの姿を受け止め、安心して過ごせるようにする。 ・ 一人ひとりと十分にふれあいながら、子どもの気持ちを受けいれて信頼関係を築いていく。 ・ 保育士と十分にふれあいながら好きなあそびを楽しむ。 ・ 保護者や保育士と一緒に運動あそびを楽しむ。	・ 梅雨期、夏期の健康状態を把握して衛生面に留意し健康に過ごす。 ・ 安心して生活できるようにこどもの気持ちを受け止め、ていねいに関わることで情緒が安定する。 ・ 水・砂・泥の感触を味わい夏のあそびを楽しむ。	・ 季節の変化や気温差に留意しながら、健康で快適に過ごす。 ・ 一人ひとりの欲求や思いを受け止め、友達関係や情緒が安定する。 ・ さまざまなあそびを通して、自然にふれながら興味や関心を広げる。 ・ リズムに合わせて歌や踊りを楽しむ。	・ 寒い時期の健康に留意しながら、外気に触れて元気に過ごす。 ・ 身の回りのことをしたい気持ちを十分認め、満足感を味わう。 ・ 保育士や友達とのかかわりの中で、言葉のやり取りを楽しむ。 ・ スプーンやフォークを下持ち又は鉛筆持ちし、食事を楽しむ。

2026年度2歳児年間指導計画

保育目標

- 基本的な生活習慣の自立をめざし、身の回りのことを自分でしようとする意欲を持つ。
- 自分の思いをことばや行動で表現できるようになる。
- からだを十分に動かしてあそぶことを楽しむ。
- あそびのイメージを広げ、友達とかかわってあそぶ楽しさを知る。

	I 期(4月～5月)	II 期(6月～8月)	III 期(9月～12月)	IV 期(1月～3月)
ねらい	・ 保育士が仲立ちをし、新入児・移行児が共に新しい環境になれる。 ・ 保育士も一緒にかかわりながら、自分の好きなあそびをじっくり楽しむ。	・ 保育士が仲立ちをし、新入児・移行児が共に新しい環境になれる。 ・ 水や泥んこ、プールあそびをたっぷり楽しむ。 ・ ごっこあそびを通して友達とかかわる楽しさを知る。 ・ 自分の思いをことばで伝えようとする。 ・ 生活発表会を通して自己肯定感を高め、達成感や自信につなげる。	・ 外あそびや散歩でからだを動かし、基礎的な体力をつける。 ・ 友達や保育士に自分の思いを伝えられるようになる。 ・ 着替えや排泄など、自分でする意欲を持つ。 ・ イメージを共有して、一緒にごっこあそびを楽しむ。 ・ 移行することに期待をもち、身のまわりのことを自分でしようとする意欲をもつ。	・ 友達と一緒にあそぶことを楽しむ。 ・ 季節の行事を楽しむ。 ・ 移行することに期待をもち、身のまわりのことを自分でしようとする意欲をもつ。
養護	・ 保育士との信頼関係を軸に、安定した生活を過ごす。 ・ 少人数のグループに分け、月齢に合った援助をしていく。 ・ 子どもにわかりやすい生活環境を工夫する。 ・ 子どもが自己決定、選択できるようにかわる。	・ 保育士が仲立ちとなり、子どもの思いを伝え合う。 ・ 少人数グループで友達とかかわりを育てる。 ・ 気温の変化や子どもの体調の変化に気をつける。 ・ 衣類の調節、暑さや日差しに注意する。	・ 保育士が媒介となり、あそびを個から集団に広げていく。 ・ 外あそびでさまざまな自然にふれ、からだや感覚を刺激する。 ・ 少人数グループで、落ち着いて安全にあそべるようにする。	・ 異年齢児とかかわる環境を提供する。 ・ 保育士と一緒に楽しんであそびながら、仲間関係を育てる。 ・ 目的により、集団を分けてあそびを組む。 ・ 室内外の気温差、換気に注意する。
生活	・ 移行児も新しい環境に慣れ、落ち着いて生活できる。 ・ 活動の区切りで誘われてトイレに行く。 ・ 友達と楽しく意欲的に食べる。 ・ お散歩を楽しみ友達と手をつないで歩く。 ・ 自分の衣類、靴の場所がわかる。 ・ 自分の物と友達のを区別できる。	・ 尿意が分かり、大人に知らせる。 ・ フォークやスプーンを正しくもって食べようとする。 ・ 衣類を自分で着脱する意欲を持つ。 ・ 脱いだ衣類を自分でたたんだり片付けようとする。 ・ 泥、水あそびやプールで全身運動を楽しむ。 ・ 季節の踊りやさまざまな動きのリズムを楽しむ。 ・ 新しい環境に慣れ、落ち着いて生活できる。	・ 尿意が分かり、大人に知らせる。 ・ 好き嫌いなく、一定量を自分で食べる。 ・ 友達と一緒に「いただきます」をする。 ・ 衣服の前後左右の違いに気づいて直そうとする。 ・ 体操でからだを動かすことを楽しむ。 ・ 友達と手をつないで長い距離を安定して歩く。	・ 尿意がわかり、自分でトイレに行く。 ・ こぼさないできれいに食べる。 ・ グループごとに食前の挨拶をする。 ・ ひとりでまたは友達の援助を求めて着脱しようとする。 ・ 衣類をたためるようになる。 ・ 手洗いのやり方がわかり自分でしようとする。 ・ 簡単なルールのあるあそびを楽しむ。
あそび	・ 小集団で見立てあそびやごっこあそびを楽しむ。 ・ 季節の花や虫にふれる。 ・ 外に出て自然を感じる。 ・ 保育士と共に手あそびを楽しむ。 ・ 季節の歌や親しみのある歌を楽しむ。 ・ 指先を使う。 ・ 飛ぶ・転がる・くぐる・走る・バランスなど充分体を使ってあそぶ。	・ 集団あそびを楽しむ。 ・ つながりあそびを楽しむ。 ・ 水や泥んこあそびをたっぷり楽しむ。 ・ 季節の歌を楽しむ。 ・ さまざまな色の名前を知る。 ・ 大きい、小さい、長い、短いなどの違いを知る。 ・ 簡単なことばあそびや手あそびを楽しむ。 ・ 指先を使ったあそびを楽しむ。	・ つながりあそびを楽しむ。 ・ 2人組での活動を楽しむ。 ・ さまざまな植物や生き物にふれる。 ・ 秋の自然を楽しむ。 ・ 自分の思っていることを伝えようとする。 ・ さまざまな歌を楽しむ。 ・ 見通しをもって待つことができる。 ・ 自分の思っていることを伝えようとする。 ・ 異年齢との交流をする。 ・ 保育士や友達と一緒に、つもりあそびやなりきりあそびを楽しむ。	・ あそびの中で簡単な劇ごっこなどのやりとりを楽しむ。 ・ 異年齢との交流をする。 ・ 寒さを楽しむ。外で積極的にあそぶ。 ・ 氷や雪に触れてあそぶ。 ・ 季節の歌を楽しむ。 ・ ストーリーの長い絵本や紙芝居を楽しむ。 ・ 自分の経験、願望、感じたことを伝えようとする。